令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 大戸 小学校 ）　　学校番号　０８１

【様式】

目指す学校像	【かしこく】自ら考え正しく判断する児童が集う学校　【やさしく】やさしさと思いやりのある児童が集う学校 【たくましく】健康でたくましい児童が集う学校

重点目標	１　個別最適化を念頭に取り組む確かな学力の育成と、本校のSDGｓ教育の推進 ２　リフレッシュ工事期間において取り組む「心と体を育む教育活動」の工夫 ３　大戸小コミュニティー・スクールの理念の共有と、地域とともにある学校づくりの推進 ４　エバを中心としたＩＣＴ機器活用実践の推進と、キャリア段階を踏まえた教師力の伸長

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和６年２月５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語・算数ともに全国平均を上回り、良好な結果といえる。 さいたま市の平均と比較しても国語・算数ともに本校が上回っている。 ○日頃の学習態度を見ると、真面目な取組の児童が多い。 ○各学級に、集団での学習に難しさをかかええた児童が在籍している。 〈課題〉 ○解答にあたり国語の「無答率」が僅かに高い。 ○個別最適化した学習の提供とSDGｓの取組。	・個別最適化を目指した授業改善	①本校児童の課題の一つである「数と計算」の習熟は、ドリルパーク等の利用による個別最適化された学習を行う。 ②個別学習が学習効果を期待できる児童に対し、ＩＣＴを活用したスタディサプリの学習を継続する。	①全国調査の結果をもとに児童が自己の弱点を意識した学習感想が書けたか。担任が解説授業を１時間実施したか。 ②スタディサプリを活用し、教師支援のもと、児童が各自の課題を解決する学びができたか。	・タブレットを用いた学習は個別最適化を目指した苦手を解消を狙ったドリル的活用から、情報共有やプレゼン的な利用へと、発達段階に応じて多岐に行われている。 ・夏休みの課題も、紙ベースからデジタルへと多くの学年で変化した。	A	・個別最適化を念頭に、児童自らが考えて学ぶ力を育成するために、コーチングの理論を指導に取り入れていく。	・大戸小学校の児童の学力は、客観的に見てどのような傾向にあるのか、ご質問をいただいた。 ・着実な学力の向上と個別支援のより一層の充実を期待する。
		・本校の実態や発達段階に適したSDGs教育の実践	①ノート指導を通して、自己の考えを表現する機会を多く設定し、楽しさを味わう力を育成し、無回答率を減らす。 ②児童の発達段階や興味・関心に応じた「大戸小 SDGｓ学習」の指導計画を作成し、主に栽培活動等の感性を育む体験型ＳＤＧｓ教育を展開する。	①学習状況調査において無答率が１％減少したか。 ②本校独自の体験型 SDGｓ学習の実践が各学年１つ以上行えたか。	・R5年度の国の学習状況調査によれば、本校の無答率は全国と比較して６０％の設問で国平均を上回る少なさであった。 ・設問の後半で無答率か上がるのは、解答時間が不足していることも、要因の一つと思われる。	B	・委員会のリサイクル活動で実践しているSDGｓを、他の教科や領域の活動にも広げることに着手する。	
2	〈現状〉 ○現在令和８年度完成を目指したリフレッシュ工事期間中であり、年度途中での教室移動や校庭の利用制限、騒音・振動が常時ある。 ○登下校の見守りは、保護者、自治会をはじめとするボランティアの方々等の協力が充実している地域である。 〈課題〉 ○様々なストレスが、児童を取り巻いている事に留意し、家庭や地域との連携、関係諸機関との連携に努め、教育相談・生徒指導を組織的に支援する。 ○工事を含めた施設設備の安全点検を教職員が徹底するとともに、児童にも危機回避能力をつける指導をすることが引き続き求められる。	・リフレッシュ工事期間に日々変わる利用可能な教育環境を踏まえた安全・安心な教育活動の推進	①管理棟２階、南校舎１階が利用できない時期においても安全に学習が進むように、大戸ルールの徹底を図るとともに、登下校時の指導により自ら危機管理のできる児童を育成する。 ②学校地域連携コーディネーターや管理職が地域諸団体と良好な関係をもち、児童の教育活動にあたる。	①学校自己評価において、安全に関連する教職員のアンケート結果が、８５％以上肯定的になったか。 ②登下校指導や地域の安全に関する活動に、職員が少なくとも年間１度は参加し、協働できたか。	・リフレッシュ工事や、それに伴う活動エリアの減少によるケガはなく、安全に対して、教職員も児童もよく考えた一年間である。 ・３学期、本来の学習活動ができている。 ・保護者や地域の見守りのおかげで、本年度も登下校における交通事故の報告はなかった。	A	・令和６年度の大きな工事「東校舎の解体」に向けた準備を遺漏なく進め、工事業者とも連携しながら、引き続き事故０を目指す事。	・来年度の夏に解体が決まっている伝統ある東校舎については、何らかのお別れイベントを考えたいと学校の意向をお伝えし、良い取り組みであると、評価頂いた。
		・個に応じた教育相談、生徒指導体制の充実と関係諸機関との連携	①アンケートや日々の見取りなどによる児童理解に努め、相談しやすい体制を整える。 ②SC や SSW と連携し、児童・保護者に対する支援を積極的に行う。その場合、全教職員で情報共有につとめ、チームとして支援にあたる。	①毎月実施する生徒指導教育相談の部会において情報交換が適切に行われ、指導後の見守りまで完遂したかどうか ②関係諸機関との連携が、児童、保護者のためにタイミングを逸することなく行われたか。	・生徒指導/教育相談部会は予定通り実施した。 ・また必要に応じて臨時会議も設定し、児童の見守りに努めた。 ・SC、SSW、の活用、連携は R5 年はより活発なものとなった。	B	・教育相談における関係諸機関との連携を一層進めること。 ・外部講師を招聘しての教職員対象の研修会を開くこと。 ・スクールダッシュボードのスムーズな導入を実現する。	
3	〈現状〉 ○学校運営協議会は、実施２年目を迎え、目標について熟議し、地域一体で児童生徒の育成にあたる方針の周知を進める段階である。 ○アフターコロナとなり、地域の活動の多くが再開される中、児童のために持続可能な学校のかかわりを検討する時期である。 ○地域コーディネーターが中心となり、地域とともにある学校としての広報活動や調整を進めている。 〈課題〉 ○アンケートの結果「あいさつ」について地域の方からの評価が低い点を今年度改善する。 ○学校運営協議会での熟議を通して、「求められる児童像」の明確化とその実現に向けた具体的方策を定め、地域、保護者に周知する。	・挨拶ができることのよさに気付き、校外でも挨拶のできるような児童を育成する取組。	①管理職や教員が朝の登校時に昇降口や通学路に立ち、あいさつを励行する。TPO に合わせた挨拶ができる児童を目指す。 ②本校 HP 内の充実を図り、平均週１回ペースで更新をすることで、関心を持ってもらう。	①児童会を中心に、本校の課題である「学校外でのあいさつ」を励行し、登下校の安全確認や外部の方との関係構築も含め「あいさつ」が出来たか。 ②学校評価のアンケートであいさつに関わる項目で８５％の肯定的回答を得られたか。	・児童によるあいさつ運動は児童会を中心に年間２回、児童自らのアイディアで実施した。 ・挨拶は本校の大切な取り組みである。今年も熱心に取り組んだ。 ・ＨＰブログを開設し、平均毎週１度の更新を始めた。現在、好評をいただき、アクセス数は本年度当初の２０倍である。	A	・学校外での適切な「あいさつ」について、学校運営協議会で熟議を重ね、引き続き児童にも指導する。	・今年度実施した学校運営協議会の委員の方々との会食では、食事のマナーを守りつつ、児童は会話を楽しんでいて、立派だったとほめていただいた。 ・校外でのあいさつは、できる児童もいるが、まだまだ伸びしろを感じる。大人も含めた地域で知り合いになり、盛り上げていこうというご意見を頂いた。
		・学校、保護者、地域が一体となって児童の育成に取り組むための指針をコミスクで共有化するための取組	①学校運営協議会をスムーズに開催し、そこで目指す児童像について熟議を行う。結果は学校 HP や学校だよりで発信する。 ②策定したプランや承認されたグランドデザインに基づき、具体積方策を定める。	①学校評価に係る「児童」「保護者」「教職員」アンケートで、児童の成長を感じられる項目において、５ポイント以上の改善成果がえられたか。 ②年３回の学校運営協議会が計画通り開催され、何らかの形でその内容を広報できたか。	・今年度の学校運営協議会では大戸小学校の「コミスクスローガン」を策定することができた。年度内に各家庭や地域に配付、周知を図り、児童の健全育成を推進する予定である。 ・予定通り開催し、３回目には児童との会食を復活することができた。	A	・様々な方法を考え、学校運営協議会で作成したスローガンの、地域や中学校区への周知を図る。	
4	〈現状〉 ○タブレットや ICT 機器を用いた授業について、エバンジェリストや情報主任を中心に研修してきた。 ○５，６年生の教科担任制の指定校として、研究と情報提供に努めてきた。 ○キャリアＩの教職員に校内研修会を実施した。 〈課題〉 ○教科担任制を生かして、次年度も使えるシラバスを作成すること。 ○２年～６年でスタディサプリを導入し、家庭でも効果的に使えるように教職員の研修会を継続する。 ○ICT 機器の利用頻度が低いと感じる児童が多い ○児童用タブレットの修理期間が長い。 ○教職員の後任を育て、継承する。	・スタディサプリの活用をはかる研修会の定期的な実施	①スタディサプリやその他のアプリの導入・活用をするための校内研修をエバを中心に月１回のペースで実施する。 ②教科担任制の指定校として、シラバスの作成に着手し、中央区の各学校に情報提供をする。	①全ての教職員がスタディサプリの機能を理解し、児童の個別最適な学習のツールとして日常的にタブレットを活用するようになったか。 ②年度末の中央区校長会において、教科担任制の本校の今年度の取組みのまとめを情報提供できたか	・スタディサプリについて、１２月のアクティブ率をみると、本校では時期による利用の偏りがあることがわかった。その理由を明確にして、指導に生かすことが必章であろう。	A	・令和６年度、学校課題研修の柱の１つを ICT 機器とすることで、より一層の個別最適な深い学びを追求する。	・タブレットについて、破損や修理について説明をし、ご意見も頂いた。 ・小学校の児童においては、十分考えられる、タブレットの破損への適切な対応を期待する。
		・キャリアＩの教職員に自主的な研修を促し、キャリアⅢの教職員が参加することで教師力の継承を図る	①キャリアＩ教職員の自主研修にキャリアⅢの教職員が学期１回程度参加し、指導する。 ②ICT 機器の利用頻度を増やすために、大戸小の児童に効果的な場の設定についての研修を夏季休業中に実施する。	①キャリアＩの教職員の自己評価シートにおいて、「学級づくり」や「学習指導」の項目で教職員自身が成長したという自己評価が、記述内容に表れたか。 ②ICT 機器の利用頻度について昨年度比１５０％を達成したか	・今年度の研修は、免許更新制の発展的解消に伴い、各自が自覚を持った取り組みだった。特に教育という枠にとらわれない外部で学ぶ多様な自己研鑽が、キャリアＩ～キャリアⅢまですべての層で実施されていた。 ・ICT 機器の利用頻度について、アンケート結果から、昨年度比１５０％を達成した。	B	・若手の OJT による育成と、臨時的任用職員の研修会を毎学期１度は実施する。	